



# ITC Sendai 2019での “Best Paper Award” 受賞

当社辰巳社員（英国サウサンプトン大学に海外留学中）と設楽社員、坂本社員が、日本トライボロジー学会発行の英文誌「Tribology Online」に投稿した学術論文「Effect of lubrication on friction and wear properties of PEEK with steel counterparts」の内容が高く評価され、2019年9月に開催された国際会議「International Tribology Conference (ITC) Sendai 2019」において“Best Paper Award”を受賞した。また、本内容について同会議内で口頭発表を行い、多くの会議参加者の関心を集めた。

樹脂（プラスチック）材料は、軽量・低騒音性といった利点から、様々な分野で摺動部位への適用が進んでおり、摩耗防止や摩擦低減に適した潤滑油の開発が望まれている。その一方で、樹脂材料の場合、条件によっては潤滑油で潤滑したほうが無潤滑（潤滑油なし）に比べて摩耗を悪化させることが知られているものの、作用機構は十分に解明されていない。本研究では、摺動用途として代表的な PEEK（ポリエーテルエーテルケトン）に着目し、潤滑油のポジティブ/ネガティブ双方の影響について考察するとともに、摩擦面の表面分析を通して、その作用機構を明らかにした。



左から設楽社員、辰巳社員（ともに潤滑油研究開発部）、  
共著者の Ratoi 博士（サウサンプトン大学）